

ちょっと気になる八王子マガジン

は ちと ひ



2021年 涼風号

No.48

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉

特集

わがまち八王子
探訪シリーズ

「由木」



多摩ニュータウン内にかかる南大沢輪舞歩道橋

由木地域を深〜く知る！ その1
“絹の道散策コース”
南大沢駅〜長池公園

由木地域を深〜く知る！ その2
“由木城址探求コース”
京王堀之内駅〜松が谷駅

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑭

コラム 八王子の原風景⑭

私の本はこうして生まれた 其の四十八

里山農業クラブ

由木地区の歴史民俗を記録した方々 佐藤 広

八王子散歩のしめくり（最終回） 馬場喜信

『高尾山の麓から ― 自然を見つめて』 菱山忠三郎 著

深～く

★由木地域を知る！ その1

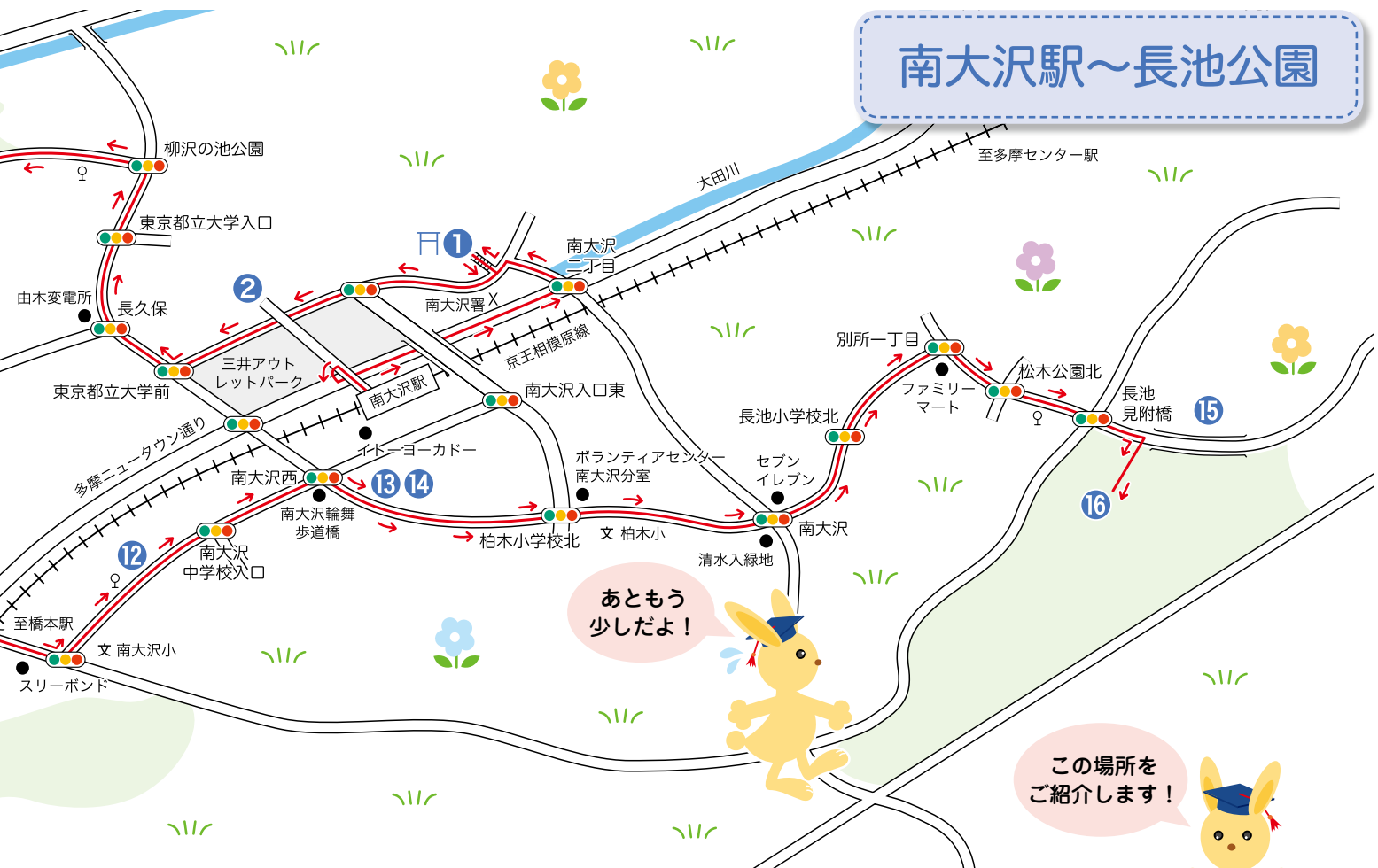
“絹の道散策コース”

今回の八王子探訪シリーズは由木地域。南大沢駅から絹の道を巡って、長池公園を目指すルートと、京王堀之内駅から由木城の面影を辿る2つのルートを設定しました。新しく開発された街と豊かな自然、古くからの寺社などが共存する興味深いエリアをご紹介します。

はちとぴ
観光★
——特撰——



南大沢駅～長池公園



②東京都立大学



1949（昭和24）年開学。1991（平成3）年に現在地へ移転。2005年に首都大学東京と改称し都立4大学を統合、2020（令和2）年から再び都立大学と名称変更。南大沢キャンパスの敷地面積は東京ドーム約9個分を誇る。

樹齢約400年、樹高25m、目通り8mの八幡神社の神木。1880（明治13）年の火災で枯死してしまっただけで、地元では「不死身のアカガシ」として敬われ、大切にされている。市指定天然記念物。



①南大沢八幡神社 （オオツクバネガシ）

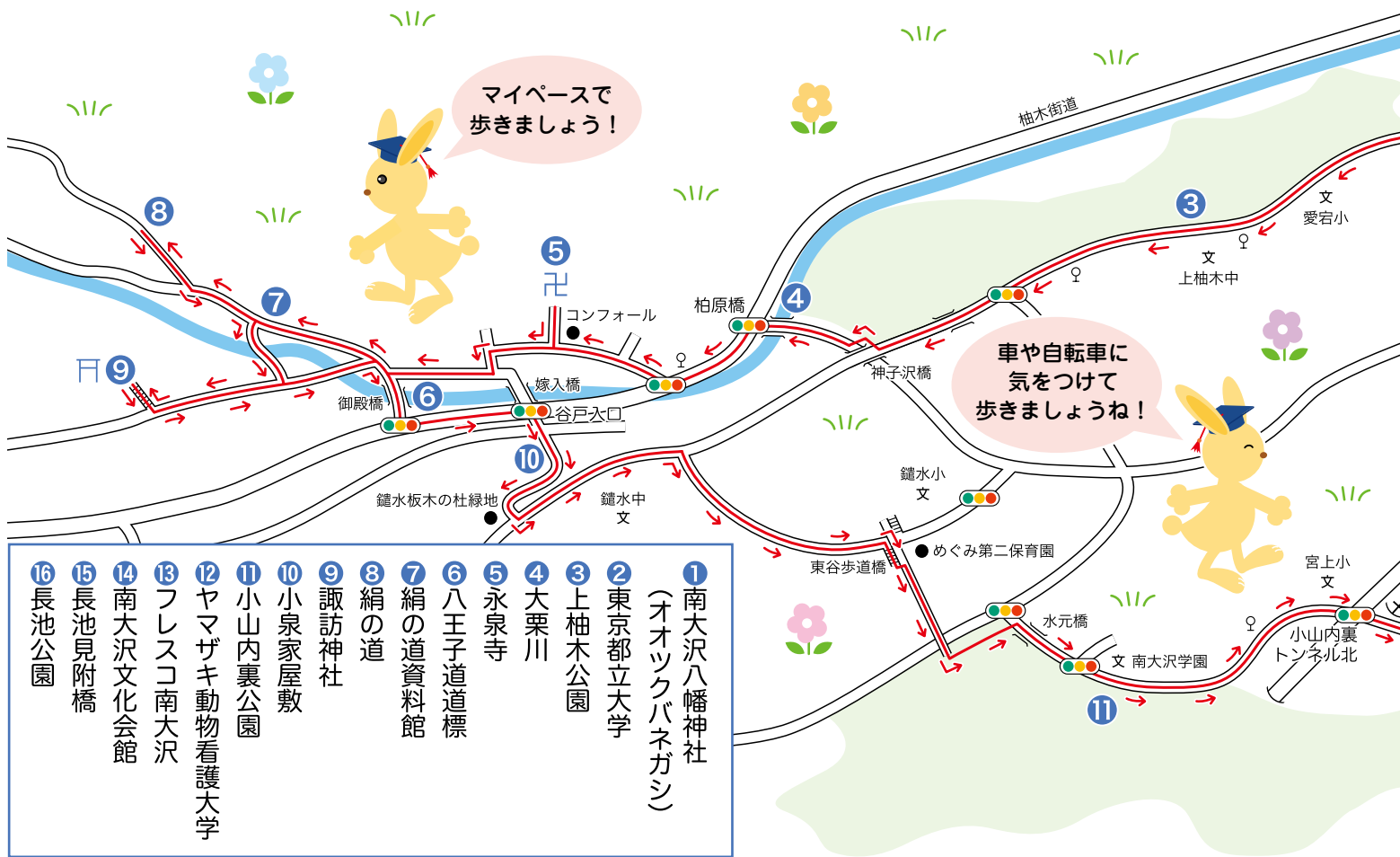
◎「由木」の縁起

八王子市の南東部に位置する由木地域。かつての大塚村、東中野村、堀之内村、越野村、松木村、南大沢村、下柚木村、上柚木村、中山村、鍾水村、別所村が1889（明治22）年に合併して由木村となりました。

この地域は東西に細長く、全体が多摩丘陵に立地しており、西から東へ大栗川が貫いています。丘陵からは小河川がいくつも流れ、特徴的な谷戸を形成し、自然と人びとが共存する里山風景が作り出されてきました。多摩地域で初めて酪農が導入されたほか、古くから稲作・畑作の副業として炭焼きや養蚕、メカイ（メカゴ）作りなどが行われてきました（本誌P10参照）。

1964（昭和39）年、村中を賛否の渦に巻き込んだ論争の末に八王子市と合併します。合併当時は市の約3％に過ぎなかった由木地域の人口も、現在は約2割を占めるまでになりました。この背景にあったのが、合併翌年に決定した多摩ニュータウン計画です。それまでは純農村地帯でしたが、新しい街づくりによって景観や伝統文化、人間関係にも大きな変化がもたらされました。

開発に伴って1990（平成2）年、地区南部の東西に京王相模原線が開通、2000年には地区東部の南北に多摩都市モノレールが開通するなど、利便性が向上しました。さらに大学キャンパスのほか、企業や商業施設なども続々と立地しています。由木地域は八王子の中でも最も大きな変貌を遂げた地域といえるでしょう。



マイペースで歩きましょう！

車や自転車に気をつけて歩きましょうね！

- ① 南大沢八幡神社
（オオツクバネガシ）
- ② 東京都立大学
- ③ 上柚木公園
- ④ 大栗川
- ⑤ 永泉寺
- ⑥ 八王子道道標
- ⑦ 絹の道資料館
- ⑧ 絹の道
- ⑨ 諏訪神社
- ⑩ 小泉家屋敷
- ⑪ 小山内裏公園
- ⑫ ヤマザキ動物看護大学
- ⑬ フレスコ南大沢
- ⑭ 南大沢文化会館
- ⑮ 長池見附橋
- ⑯ 長池公園

④大栗川



鍾水の御殿峠を源流とし、柚木街道、野猿街道沿いを蛇行しながら流れる河川。途中、大田川を合わせ、多摩市で多摩川に合流する。川に降りられる場所は少ないが、川沿いに遊歩道が整備され、春は桜を楽しむこともできる。

③上柚木公園



豊かな自然環境を残した21haに及ぶ総合公園。園内には陸上競技場、野球場、ソフトボール場、テニスコートの4つの有料屋外運動施設のほか、児童遊園や展望台、広大な芝生の丘などがあり、スポーツと憩いの場として親しまれている。

⑤永泉寺



1573（天正元）年創建と伝わる曹洞宗の寺院。現在の本堂は生糸商人の八木下要右衛門の母屋を移築したものである。境内には芭蕉句碑をはじめ、5基の句碑が立ち、芭蕉堂もある。俳句が盛んだった土地柄を偲ばせる。

⑥八王子道道標



生糸を横浜港へ運ぶときの道しるべとして、1865（慶応元）年に建立された道標。かつては御殿橋南側にあった旧鍵水公会堂横に建てられていたが、大栗川の改修工事に伴い、1988（昭和63）年に現在地に移された。

⑦善太郎坂



1990（平成2）年、生糸商人で「石垣大尽」と呼ばれた豪商、八木下要右衛門の屋敷跡に開館した。通りには復元された石垣が目につく。館内では絹の道の歴史が紹介しており、休憩室も備えている。月曜・年末年始休館、入館料無料。

⑧絹の道



神奈川往還の通称で、浜街道ともいった。幕末から明治にかけて、八王子近郷はもとより、長野・山梨・群馬方面からの輸出入の生糸が横浜へと多数運ばれていた。御殿橋から大塚山公園までが市史跡に指定されている。（はちとび30号参照）

⑨諏訪神社



鍵水地区の氏神で、1877（明治10）年に諏訪・子の権現・八幡の3社が合祀。拝殿は1つだが、本殿は3社あり、いずれも市指定有形文化財。江戸時代中頃から明治時代にかけての建築様式が市内に伝わった様子をうかがうことができる。

⑩小泉家屋敷



1878（明治11）年に建てられた入母屋造りの茅葺き屋根の民家。当時の養蚕農家の姿をよく残している。現在も住居として利用されていて、内部は原則非公開。都指定有形民俗文化財であり、日本遺産構成文化財の1つ。（本誌P11参照）

ひと休みコラム

多摩ニュータウン



▲南大沢駅前通り

多摩ニュータウンは、東京都稲城市、多摩市、八王子市、町田市の多摩丘陵に開発された総面積約2880ha（うち約40%が八王子市域）に及ぶ大規模住宅地で、1965（昭和40）年に開発計画が決定されました。

1960年代の東京は、深刻な住宅難によって無秩序な開発が進んでいました。このような乱開発を阻止し、居住環境の良い宅地や住宅を大量に供給することを目的として多摩ニュータウンは計画され、1971年に多摩市諏訪・永山地区で最初の入居が開始されています。

同年、八王子市域でも由木土地区画整理事業の都市計画決定がなされ、のどかな農村地帯は一気に近代的な都市へと変貌していきます。地元住民は大きなうねりに翻弄され、さまざまな思いを抱えながらも区画整理や移転工事などに対応しました。1976年には鹿島・松が谷地区で入居がスタート。八王子市との合併当時（1964年）は6千人人だった由木地域の人口は、現在、11万人を超えるまで膨らんでいます。

多摩ニュータウンには、住宅地だけでなく、多くの施設も建設されました。1991年に南大沢地区に移転してきた都立大学をはじめ、大学が多く立地し、学生（18〜22歳）人口が市内の他地域と比べて多いのが特徴となっています。また、道路や鉄道などの交通網やスポーツ施設を備えた大きな総合公園、小中学校、市民センターなどが計画

客席数500の主ホール、客席を自由に配置できる円形の交流ホールのほか、リハーサル室、練習室、展示・多目的室、会議室を備える。種々定期公演やモーニングコンサート、入場無料のロビーコンサートなどが開催されている。

14 南大沢文化会館



2004（平成16）年開園。多摩丘陵の主稜線上に位置し、園内の大部分が雑木林で覆われている。湧水豊かな谷戸も良好な形で残っていて、多様な動植物が生息している。尾根の緑道には、戦車の性能テストなどに利用された「戦車道路」が残る。

11 小山内裏公園



1913（大正2）年に四ツ谷駅の真上に竣工したアーチ橋（四谷見附橋）を1993（平成5）年に移築。長池から流れる湧水をせき止めた池の上に、資材の一部を利用して再建した。たもとは移設できなかった資材が展示されている。

15 長池見附橋



1967（昭和42）年に創立したヤマザキ学園を母体として、2010（平成22）年に「ヤマザキ学園大学」として現在地に開学（2018年に現在の名称に変更）。人と動物の豊かな共生社会を探究する日本で唯一の動物看護学部を設置している。

12 ヤマザキ動物看護大学



多摩の里山風景を再現した約20haの公園。周囲の丘陵から湧き出す水を集めた長池は、かつては雑木林に囲まれた神秘的な沼沢地であり、蓮生寺の薬師如来が出現したとの伝説がある。自然館では、園内の動植物に関する展示を見ることが出来る。

16 長池公園



1996（平成8）年竣工の複合施設。オフィス棟と南大沢総合センターからなる。南大沢事務所、南大沢図書館、南大沢保健福祉センター、生涯学習センター、南大沢分館、南大沢市民センター、南大沢文化館などを備える。

13 フレスコ南大沢



的に整備、配置されてきたほか、南大沢駅や京王堀之内駅周辺にはさまざまな商業施設も並んでいます。特に南大沢駅前には2000年にラ・フェット多摩南大沢（現三井アウトレットパーク多摩南大沢）が開設され、市内外の多くの人びとを呼び込んでいます。

一方で、将来を見据えたとき、多摩ニュータウンは少子高齢化や建物の経年劣化など、具体的な懸案事項も抱えています。市では、2019年に「八王子市多摩ニュータウンまちづくり方針」を策定し、ベッドタウンとしての機能にとどまるのではなく、地域内で持続可能なまちづくりを進められるような計画を立てました。その発展の大きな原動力となるのは、まさに人。多摩ニュータウンは、ただ近代的な建物があるだけでなく、そこで暮らす人びとの営みがまちの空気感を生み出してきたのです。これからも新旧さまざまな住民によって新しいまちが作り上げられていくことでしょう。

多摩ニュータウンの 開発前の風景



▲堀之内の稲刈り風景
（1968年、瀬沼和重氏撮影）



▲清水入谷戸
（1976年ころ、馬場喜信氏撮影）



▲長池（1976年ころ、馬場喜信氏撮影）